

りこれ神の人の完全を得て諸の善事を行ふに缺かからん爲なり

【第四章】われ神の前より顕るゝ時々の國を於て生る者死る者を審判するキリストイエスの前にて爾を

求むべし 爾が道を宣傳ふべし時を得も時を得ざるも勵みて之を務必各様れ忍勵と教誨を以て人を督し戒

め勸むべし 爾れ人眞の教を容す耳を憐むしむる言を毋み其私慾に備ひて己の爲に脚を増加する時來らん

かれら耳を眞理より背け奇き談同ふべし 然も憚るべし 然も憚るべし 然も憚るべし 然も憚るべし 然も憚るべし

爾の職を盡せ 爾れ今祭物とからんとす我が世をさる期ちかつけり 爾れ既ち善戰をたかくかひ既ち馳る

べき途程を盡し既ち信仰の道を守れり 今より後義の冕わが爲わ備わたりますなち正き審判を必ず者

の日本至りて之を我に子公獨われわするのみならず凡て彼の驛者も慕ふ者わもすふべし 爾ら務て

速か小我わ來れ 爾ら之の世を愛し我を棄てテサロニクを往りクレスケンガラヤホテニスガル

ラヤに往り惟ルカのみ我と惜にわり 爾ら之を伴て借わ來れ蓋かれの職われ小益われバ也 我ラキコを

エバツ遺せり 爾らきたる時わがトロアスホてカレボの所に遺し外衣を携へ來れ又外書籍を携へ來れ

爲ん 爾も亦かれを防ぐべし彼甚しく我儕の言を敵ひたり 我ら始めて審官を事由を陳しどき誰も我と惜

にせず皆われを離れり願くハ彼等わ罪の歸せざらんことを 然も主我と借わ在て我に力量を予へ給へり

是われ自由て道こそく傳り異邦人をして皆之れを聽しめん爲なり我救れて童子の口より出たり 主

きた我を救ひて諸の惡事より離れしめ出われを救ひて其夫の國を人願くハ業世々窮なく彼に歸せんことを

をアタイムン 請かたぢアリスキラとアキラとアキラの家を問 トラストコリントを留れケト

コリント一〇一  
一〇二  
一〇三  
一〇四  
一〇五  
一〇六  
一〇七  
一〇八  
一〇九  
一一〇  
一一一  
一一二  
一一三  
一一四  
一一五  
一一六  
一一七  
一一八  
一一九  
一二〇  
一二一  
一二二  
一二三  
一二四  
一二五  
一二六  
一二七  
一二八  
一二九  
一三〇  
一三一  
一三二  
一三三  
一三四  
一三五  
一三六  
一三七  
一三八  
一三九  
一四〇  
一四一  
一四二  
一四三  
一四四  
一四五  
一四六  
一四七  
一四八  
一四九  
一五〇  
一五一  
一五二  
一五三  
一五四  
一五五  
一五六  
一五七  
一五八  
一五九  
一六〇  
一六一  
一六二  
一六三  
一六四  
一六五  
一六六  
一六七  
一六八  
一六九  
一七〇  
一七一  
一七二  
一七三  
一七四  
一七五  
一七六  
一七七  
一七八  
一七九  
一八〇  
一八一  
一八二  
一八三  
一八四  
一八五  
一八六  
一八七  
一八八  
一八九  
一九〇  
一九一  
一九二  
一九三  
一九四  
一九五  
一九六  
一九七  
一九八  
一九九  
二〇〇  
二〇一  
二〇二  
二〇三  
二〇四  
二〇五  
二〇六  
二〇七  
二〇八  
二〇九  
二一〇  
二一一  
二一二  
二一三  
二一四  
二一五  
二一六  
二一七  
二一八  
二一九  
二二〇  
二二一  
二二二  
二二三  
二二四  
二二五  
二二六  
二二七  
二二八  
二二九  
二三〇  
二三一  
二三二  
二三三  
二三四  
二三五  
二三六  
二三七  
二三八  
二三九  
二四〇  
二四一  
二四二  
二四三  
二四四  
二四五  
二四六  
二四七  
二四八  
二四九  
二五〇  
二五一  
二五二  
二五三  
二五四  
二五五  
二五六  
二五七  
二五八  
二五九  
二六〇  
二六一  
二六二  
二六三  
二六四  
二六五  
二六六  
二六七  
二六八  
二六九  
二七〇  
二七一  
二七二  
二七三  
二七四  
二七五  
二七六  
二七七  
二七八  
二七九  
二八〇  
二八一  
二八二  
二八三  
二八四  
二八五  
二八六  
二八七  
二八八  
二八九  
二九〇  
二九一  
二九二  
二九三  
二九四  
二九五  
二九六  
二九七  
二九八  
二九九  
三〇〇  
三〇一  
三〇二  
三〇三  
三〇四  
三〇五  
三〇六  
三〇七  
三〇八  
三〇九  
三一〇  
三一〇

ア提摩九  
\*加六八甲五  
\*加六八甲五  
をアタイムン  
ラウテア兄弟みな爾小安を問 願くハ主イエスキリストの靈と偕にわれ願く之を龍爾曹わ在んこと  
ピモ痛われ我かれをミレトス留たり 二 かなが冬より前も急ぎ我わ來れニアルドテニスとク

イ 提二二章四十三節  
 ロ 提二二章四十四節  
 ハ 提二二章四十五節  
 ニ 提二二章四十六節  
 ホ 提二二章四十七節  
 ヘ 提二二章四十八節  
 ニ 提二二章四十九節  
 ホ 提二二章五十節  
 ヘ 提二二章五十一節  
 ニ 提二二章五十二節  
 ホ 提二二章五十三節  
 ヘ 提二二章五十四節  
 ニ 提二二章五十五節  
 ホ 提二二章五十六節  
 ヘ 提二二章五十七節  
 ニ 提二二章五十八節  
 ホ 提二二章五十九節  
 ヘ 提二二章六十節  
 ニ 提二二章六十一節  
 ホ 提二二章六十二節  
 ヘ 提二二章六十三節  
 ニ 提二二章六十四節  
 ホ 提二二章六十五節  
 ヘ 提二二章六十六節  
 ニ 提二二章六十七節  
 ホ 提二二章六十八節  
 ヘ 提二二章六十九節  
 ニ 提二二章七十節  
 ホ 提二二章七十一節  
 ヘ 提二二章七十二節  
 ニ 提二二章七十三節  
 ホ 提二二章七十四節  
 ヘ 提二二章七十五節  
 ニ 提二二章七十六節  
 ホ 提二二章七十七節  
 ヘ 提二二章七十八節  
 ニ 提二二章七十九節  
 ホ 提二二章八十節  
 ヘ 提二二章八十一節  
 ニ 提二二章八十二節  
 ホ 提二二章八十三節  
 ヘ 提二二章八十四節  
 ニ 提二二章八十五節  
 ホ 提二二章八十六節  
 ヘ 提二二章八十七節  
 ニ 提二二章八十八節  
 ホ 提二二章八十九節  
 ヘ 提二二章九十節  
 ニ 提二二章九十一節  
 ホ 提二二章九十二節  
 ヘ 提二二章九十三節  
 ニ 提二二章九十四節  
 ホ 提二二章九十五節  
 ヘ 提二二章九十六節  
 ニ 提二二章九十七節  
 ホ 提二二章九十八節  
 ヘ 提二二章九十九節  
 ニ 提二二章一百節

新約全書使徒パウロラテに贈れる書

神の僕またイエスキリストの使徒パウロ同じ信仰を由て我が真子なるラテラ小書を贈る我神の  
 選び給へる人をして信仰を起さしめ且神を敬ふ真道を知しめん爲す使徒の職をなして誠なき神の創世  
 の前約束し給ひし永生を望めり 神己の定め給へる期わ及びて宣教に由てこの永生の道を聖せ  
 り宣教り即ち我儕の救主なる神の命を以て我を託ね給へる所のもの也 願くは爾ラテラ小書なる神をよ  
 り我儕の救主キリストイエスより恩寵と平康を受よ 〇 われ爾をラテラ小書留たる故に爾をして缺たる所  
 を正しく且わが爾に命ぜし如く各邑に長老を立しめんとて也 人もし各むべき所なく一個の婦の夫にし  
 て其子女も放蕩をもて訴らるゝとてさく服とさるゝとてさき信者ならん長老も立べき者あり うれし監督ハ  
 神の家宰なれば必ず各むべき所なく己が任をなさず輕易しく怒らず酒を嗜まず人を撃す利を貪らずか  
 人を懇切に待ひ善を好み謹度公義聖潔自ら制し 學びし所の真道を守るべし是正 教を以て人を勸め且  
 辨駁する者を折らん爲あり 〇 人の服とさるゝとして虚言論をいふ者また欺く事を爲もの多して割禮に屬する者  
 の中より殊小此の如き者われバ也 〇 かれら汚利を得ん爲す教ふべからざる事を教へて全家の信仰を亡す  
 故小必らず彼等の口をして箝がしむべし 〇 クレテ人の中なる一預言者のひけるハクレテ人の悩小誠を  
 言もの惡訓また憚情をして食を貪る者なりと 〇 この證ハ真あり是故小爾嚴く彼等を取め彼等をして信仰  
 を堅うし 〇 各人の奇き談と真理を棄る人の立し律法に心を寄ること莫らしむべし 〇 人ハ人ハ凡の物  
 ごとく汚たる人など不信者にハ一として潔き物なし既小彼等の心と真心ともお汚れたり 彼等自ら神を識  
 と認めれども其行ハ之に逆る彼等ハ惡むべき者あり脚とさるゝ者あり諸の善事に就てハ棄べき者あり



新約全書使徒パウロピレモニに贈れる書

イニスクリストの爲に囚人となれるパウロ及び兄弟ガモテ我儕が愛する者われらが勸勞の俚なるピレモニ及び我儕が姉妹アヒア我儕と共に戰爭をさせるアルキボ並に爾の家の教會に書を贈る 願くハ爾

曹われらの父なる神および主イエスキリストより恩寵と平康を受よ ○ われ祈る時に常に爾の事を陳て我神不誤す 蓋われ爾の愛と信仰をもて主イエスに向ふた諸の聖徒に向ふことを聞ハなり 我が祈る所ハ爾と偕に信仰を有てる人かんがらの中なる凡の善事を知ら四の信仰切效をなしキリストの榮光を顯

とすに至らんこと也 兄弟よ我ならんがの愛に由て大なる喜樂と安穩を得たり 蓋聖徒等の心んがに由て安せられたれ也 是に由て我キリストに在て憚る所なく爾に其作べき事を命ずることを得と雖も 愛の故に因て寧ろ爾に求む我すべて年老いぢキリストイエスの爲に囚人となれるパウロ此の如き狀にて

わが縲綽の中に生じ子なるオサシモの事を爾に求む かれ先にハ爾に益なき者なりしが今ハ爾にも我らにも益ある者となれり 我かれ爾の所へ歸す 爾これと納り 我が心なり われ彼をして我所に留め我が福音の爲に受たる縲綽の中に爾に代て我に事しめんと欲へり 然ども我んがの肯はざる事ハ何を

も行を好まず 是なんがが供給止を得ざるに出ずして心より出んことを望め之也 彼が暫く爾を離しハ爾をして永遠かれを留めき 此後かれを僕に超るもの愛する兄弟と作しむる爲に非ざりしを

知んや 我かれを殊に愛す 况んや 爾肉に由ても主に由ても之を愛せざる可んや 爾もし我を偕となさば 請われを納る如く 彼を納り 彼もし爾に不義をなし 又なんがに負債わらハ 爾これ我に歸せよ 我パウロ親手これを書り 我かならず 償之ハ 爾ハ身をもて償ふべき 負債われに有されど 我これと言す 兄弟よ 我爾

イ 門九節二一節一型  
ロ 門九節二五節一型  
ハ 門九節二七節一型  
ニ 門九節二九節一型  
三 門九節三一節一型  
四 門九節三三節一型  
五 門九節三五節一型  
六 門九節三七節一型  
七 門九節三九節一型  
八 門九節四一節一型  
九 門九節四三節一型  
十 門九節四五節一型  
十一 門九節四七節一型  
十二 門九節四九節一型  
十三 門九節五一節一型  
十四 門九節五三節一型  
十五 門九節五五節一型  
十六 門九節五七節一型  
十七 門九節五九節一型  
十八 門九節六一節一型  
十九 門九節六三節一型  
二十 門九節六五節一型  
二十一 門九節六七節一型  
二十二 門九節六九節一型  
二十三 門九節七一節一型  
二十四 門九節七三節一型  
二十五 門九節七五節一型  
二十六 門九節七七節一型  
二十七 門九節七九節一型  
二十八 門九節八一節一型  
二十九 門九節八三節一型  
三十 門九節八五節一型  
三十一 門九節八七節一型  
三十二 門九節八九節一型  
三十三 門九節九一節一型  
三十四 門九節九三節一型  
三十五 門九節九五節一型  
三十六 門九節九七節一型  
三十七 門九節九九節一型  
三十八 門九節一〇一節一型  
三十九 門九節一〇三節一型  
四十 門九節一〇五節一型  
四十一 門九節一〇七節一型  
四十二 門九節一〇九節一型  
四十三 門九節一一一節一型  
四十四 門九節一一三節一型  
四十五 門九節一一五節一型  
四十六 門九節一一七節一型  
四十七 門九節一一九節一型  
四十八 門九節一二一節一型  
四十九 門九節一二三節一型  
五十 門九節一二五節一型

より心を以て得んことを望む爾が心をキリストに由て息めよ  
 二 われ爾が服ふことを深く信じて  
 之を爾に書贈る爾の行ふ所も必ず我いふ所よりも勝らんことを知り  
 三 又なんぢが我ためお寓所を備へよ蓋  
 われ爾曹の祈禱も由て終へ我身も爾曹も手られん意へ也  
 三 イエスキリストに在て我も偕に囚人よ  
 けるエバラ爾の安を問わが勸勞の俵なるマコリスアルコブラスルカも同く安を爾に問願く  
 四 吾主イエスキリストの恩恵つねお爾曹の靈と偕お在んことをアミノ

新約全書腓利門書終

新約全書腓利門書終

新約全書腓利門書終

一 一節 〇一  
 二 二節 〇二  
 三 三節 〇三  
 四 四節 〇四  
 五 五節 〇五  
 六 六節 〇六  
 七 七節 〇七  
 八 八節 〇八  
 九 九節 〇九  
 十 十節 一〇  
 十一 十一節 一一  
 十二 十二節 一二  
 十三 十三節 一三  
 十四 十四節 一四  
 十五 十五節 一五  
 十六 十六節 一六  
 十七 十七節 一七  
 十八 十八節 一八  
 十九 十九節 一九  
 二十 二十節 二〇  
 二十一 二十一節 二一  
 二十二 二十二節 二二  
 二十三 二十三節 二三  
 二十四 二十四節 二四  
 二十五 二十五節 二五  
 二十六 二十六節 二六  
 二十七 二十七節 二七  
 二十八 二十八節 二八  
 二十九 二十九節 二九  
 三十 三十節 三〇  
 三十一 三十一節 三一  
 三十二 三十二節 三二  
 三十三 三十三節 三三  
 三十四 三十四節 三四  
 三十五 三十五節 三五  
 三十六 三十六節 三六  
 三十七 三十七節 三七  
 三十八 三十八節 三八  
 三十九 三十九節 三九  
 四十 四十節 四〇  
 四十一 四十一節 四一  
 四十二 四十二節 四二  
 四十三 四十三節 四三  
 四十四 四十四節 四四  
 四十五 四十五節 四五  
 四十六 四十六節 四六  
 四十七 四十七節 四七  
 四十八 四十八節 四八  
 四十九 四十九節 四九  
 五十 五十節 五〇  
 五十一 五十一節 五一  
 五十二 五十二節 五二  
 五十三 五十三節 五三  
 五十四 五十四節 五四  
 五十五 五十五節 五五  
 五十六 五十六節 五六  
 五十七 五十七節 五七  
 五十八 五十八節 五八  
 五十九 五十九節 五九  
 六十 六十節 六〇  
 六十一 六十一節 六一  
 六十二 六十二節 六二  
 六十三 六十三節 六三  
 六十四 六十四節 六四  
 六十五 六十五節 六五  
 六十六 六十六節 六六  
 六十七 六十七節 六七  
 六十八 六十八節 六八  
 六十九 六十九節 六九  
 七十 七十節 七〇  
 七十一 七十一節 七一  
 七十二 七十二節 七二  
 七十三 七十三節 七三  
 七十四 七十四節 七四  
 七十五 七十五節 七五  
 七十六 七十六節 七六  
 七十七 七十七節 七七  
 七十八 七十八節 七八  
 七十九 七十九節 七九  
 八十 八十節 八〇  
 八十一 八十一節 八一  
 八十二 八十二節 八二  
 八十三 八十三節 八三  
 八十四 八十四節 八四  
 八十五 八十五節 八五  
 八十六 八十六節 八六  
 八十七 八十七節 八七  
 八十八 八十八節 八八  
 八十九 八十九節 八九  
 九十 九十節 九〇  
 九十一 九十一節 九一  
 九十二 九十二節 九二  
 九十三 九十三節 九三  
 九十四 九十四節 九四  
 九十五 九十五節 九五  
 九十六 九十六節 九六  
 九十七 九十七節 九七  
 九十八 九十八節 九八  
 九十九 九十九節 九九  
 一百 一百節 一〇〇

新約全書希伯來書第一章

神昔ハ多の區別をなして多の方をもて預言者により列祖に告給ひしが  
 二 この末日に其子に記て  
 我儕に告たせ入り神ハ彼を立て萬物の嗣とし且かれを以て諸の世界を造りたり  
 三 彼の神の榮光の輝  
 質の眞像にて己が權能の言をもて萬物を扶持われらの罪をなして上天に在す威光の右に坐しぬ  
 四 彼  
 が受し名の天の使者の名よりも愈れる如く彼等よりも愈れり  
 五 天の使者の中なる誰か曾て如此いへ  
 る乎なんぢの我子亦り我今日亦んぢを生りと又われ彼の爲に父とならん彼ハ我ためめに子と作べしと  
 六 父  
 た我子を世に入しむる時に目給へるハ神の諸の使者ハ皆これに跪くべし  
 七 また使者等に就てハ彼等の  
 者等を風となし其役をなす者ハ火燭となすと曰り  
 八 子の目に目するハ神の位ハ世々に及び爾の國の故ハ  
 正し概なり  
 九 ながら義を愛し惡を惡む是故に神すかはす爾の神ハ喜樂の膏を以て爾の臣よりも愈りて爾  
 に沃り  
 十 また曰く主よ爾元始に地の基を奠く天も爾が手の工なり  
 十一 此等ハ亾ん然て爾ハ恒に存ん此等ハ  
 凡て衣の如く舊ひん  
 十二 爾これらとを袍の如く捲む又これらハ變らん然て爾ハ變ることなし爾の壽ハ終ざる  
 也  
 十三 使者等の中なる誰に爾の敵を爾の足踏となすや  
 十四 我右に坐すべしと曾て云給へること多しや  
 十五 凡て  
 天の使者ハ救を嗣んとする者に事んため遣さるる靈に非ずや  
 十六 是故に我儕聞し所を流過ること莫らん爲にいよ  
 十七 篇く慎むべし  
 十八 天の使者等に記て言給ひし  
 言堅立して凡の違逆と不順とみな正し報を受たらんに  
 十九 此の如き大なる救を我儕等閑にして何で追る  
 ことを得んや  
 二十 斯ハ始め主に記て示されたるを聞き者ども我儕に言證たり  
 二十一 神も亦りの聖旨に循ひて休

徴ど奇蹟および萬殊の異能と分りたる所の聖靈を以て彼等と偕に證せり。され神ハ我儕が言てこの來らんとする世を天の使等より服させざりき。或篇に人證して曰けるハ人を誰として擧てれを心に託るや。人の子を誰として擧てれを審顧るや。爾かれを天の使等より少しく還し。彼に榮と尊貴を冠らせ。又かちの手にて造りし者の上に之を立たり。かんち萬物を其足下に服せしむ。既に萬物を之に服せしむれば。必ず服せずして還る物なし。然ど今に至るまで我儕萬物の未だ之に服せしむを見ず。惟われら天の使等より少く還されし者。即ち死の苦を受し。に因て榮と尊貴を冠せられたるイエスを。見たり。其死たるハ神の恩に因て衆の人に代り。死を嘗へんが爲なり。是はおほくの子を樂に導かんとして。其を救ふ君として。苦難を以て成しむる。萬物の歸するところ。萬物を造れる者に應ることも也。うれ漂る者と漂らるる者と。凡て一より出で。この故に彼等。兄弟と稱するを恥じ給えずして。曰らく我か。んちの名を我が兄弟に示さん。爾を教會の中に讀ん。また曰く。我かに依願えん。又いはく。我と神の我に守へし。讀子を祝し。うれ讀子ハ偕に肉と血とを具れば。彼も同く之を具ふ。是死をもて死の權威を有るもの。即ち惡魔を滅ぼし。かつ死を畏て生涯つなぐる者。を放たん爲なり。實に天の使等を助す。アラムの子孫を助す。是故に神も屬る事について。矜恤と忠義なる祭司の長と。さうて民の罪を贖さん爲に。諸事に於て兄弟の如なるハ宜なり。蓋かれ自ら誘之れて。艱難を受たれば。誘ゆる者も。一せよ。より。過て樂を受べき者とせられたり。凡ち家ハ之を建れる者。あり。萬物を造れるなる我儕が信する所の。使者たる祭司の長たるイエスを。深く思ふべし。ろハ家を建らし者の家より。過て樂あるが如く。彼も。一せよ。より。過て樂を受べき者とせられたり。

一節 九〇九  
 二節 九一〇  
 三節 九一一  
 四節 九一二  
 五節 九一三  
 六節 九一四  
 七節 九一五  
 八節 九一六  
 九節 九一七  
 一〇節 九一八  
 一一節 九一九  
 一二節 九二〇  
 一三節 九二一  
 一四節 九二二  
 一五節 九二三  
 一六節 九二四  
 一七節 九二五  
 一八節 九二六  
 一九節 九二七  
 二〇節 九二八  
 二一節 九二九  
 二二節 九三〇  
 二三節 九三一  
 二四節 九三二  
 二五節 九三三  
 二六節 九三四  
 二七節 九三五  
 二八節 九三六  
 二九節 九三七  
 三〇節 九三八  
 三一節 九三九  
 三二節 九四〇  
 三三節 九四一  
 三四節 九四二  
 三五節 九四三  
 三六節 九四四  
 三七節 九四五  
 三八節 九四六  
 三九節 九四七  
 四〇節 九四八  
 四一節 九四九  
 四二節 九五〇  
 四三節 九五〇  
 四四節 九五〇  
 四五節 九五〇  
 四六節 九五〇  
 四七節 九五〇  
 四八節 九五〇  
 四九節 九五〇  
 五〇節 九五〇

者ハ神なり。夫。一せよ。の將來に言傳へられん。とする事の。證をせんが爲めに。僕人の如く。神の全家に於て。忠義をなし。キリストの子たる者の如く。神の家を築き。我儕も。信仰と望の喜とを。終まで堅く保。我儕ハ其家なり。是故に聖靈の云る如く。せよ。爾曹も。今日其聲を聽べ。野に在て。主を試みたる日。の怒を惹し。時の如く。爾曹心を剛愎する勿き。其處。於て。爾曹の列祖。我を。試み。我を。ためし。又四十年の間。わが。作爲を視たり。是故。我。の。代の人。を。怒て。彼等。ハ。當心。惑。いと。曰。然。我。道。を。知。ざ。り。き。故。我。儕。憤。り。て。彼。等。ハ。我。が。安。息。を。入。べ。か。ら。ず。と。誓。たり。兄弟。爾。曹。が。中。に。不。信。仰。な。る。惡。き。心。を。懷。て。活。神。の。前。より。離。れ。墮。る。て。と。莫。らん。や。う。憤。ひ。べ。し。爾。曹。の。うち。誰。一。人。罪。の。誘。惑。を。由。て。剛。愎。に。か。ら。ざ。り。や。今。日。と。稱。する。うち。に。日。々。互。に。相。勸。め。よ。ろ。ハ。我。儕。も。し。始。の。信。仰。を。終。まで。堅。く。持。ぱ。キ。リ。ス。ト。に。興。る。者。と。な。らん。夫。い。へ。る。言。わ。り。若。し。今日。の。聲。を。聽。べ。怒。を。惹。し。時。の。ごとく。爾。曹。の。心。を。剛。愎。に。する。勿。れ。開。て。不。信。疑。を。惹。し。者。ハ。誰。不。や。一。せ。よ。に。從。ひ。て。エ。ヴ。ア。ン。ト。より。出。たる。衆。の。者。に。非。ず。や。神。ハ。四。十。年。の。あ。ひ。だ。誰。に。向。て。怒。り。や。罪。を。犯。して。其。屍。を。野。に。伏。し。し。者。等。も。お。怒。れ。る。か。ら。ず。又。その。安。息。に。入。べ。か。ら。ず。と。誰。に。向。て。誓。し。や。信。仰。せ。ざ。り。し。者。等。に。誓。す。な。ら。ず。乎。是。に。由。て。觀。べ。彼。等。が。入。て。を。得。ざ。り。し。不。信。仰。の。由。て。なり。

**第四節** 是故に我儕長るべし其安息に在る約束ハ今も尙のこれども恐くハ爾曹のうちに及ぶる者ありん蓋われらも彼等が如く福音を宣傳されたり惟かれらが聞し所の言ハその信仰測ざりしが故に開る者も益なかりき。信する所の我儕ハ安息を入てをを得たり。即ち言。ひたるが如し。我。恐。れ。る。と。き。誓。て。彼。り。我。が。安。息。を。入。べ。か。ら。ず。と。云。り。然。ど。又。云。り。然。ば。之。に。入。く。云。ハ。神。ハ。第。七。日。に。凡。て。其。工。を。息。め。り。と。又。こ。の。次。篇。に。彼。等。ハ。我。が。安。息。に。入。べ。か。ら。ず。と。云。り。然。ば。之。に。入。

一節 九四九  
 二節 九五〇  
 三節 九五〇  
 四節 九五〇  
 五節 九五〇  
 六節 九五〇  
 七節 九五〇  
 八節 九五〇  
 九節 九五〇  
 一〇節 九五〇  
 一一節 九五〇  
 一二節 九五〇  
 一三節 九五〇  
 一四節 九五〇  
 一五節 九五〇  
 一六節 九五〇  
 一七節 九五〇  
 一八節 九五〇  
 一九節 九五〇  
 二〇節 九五〇  
 二一節 九五〇  
 二二節 九五〇  
 二三節 九五〇  
 二四節 九五〇  
 二五節 九五〇  
 二六節 九五〇  
 二七節 九五〇  
 二八節 九五〇  
 二九節 九五〇  
 三〇節 九五〇  
 三一節 九五〇  
 三二節 九五〇  
 三三節 九五〇  
 三四節 九五〇  
 三五節 九五〇  
 三六節 九五〇  
 三七節 九五〇  
 三八節 九五〇  
 三九節 九五〇  
 四〇節 九五〇  
 四一節 九五〇  
 四二節 九五〇  
 四三節 九五〇  
 四四節 九五〇  
 四五節 九五〇  
 四六節 九五〇  
 四七節 九五〇  
 四八節 九五〇  
 四九節 九五〇  
 五〇節 九五〇